Press Release

報道関係各位

2025年8月8日

Ｈｍｃｏｍｍ株式会社

守山市での漏水検知実証実験に関する取り組みが水道産業新聞に掲載されました

異音検知によるインフラメンテナンスDXのリーディングカンパニーであるＨｍｃｏｍｍ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長CEO：三本 幸司）は、音×AIによる異常音検知技術を強みに、社会インフラの維持・保全に貢献するソリューションを提供しています。老朽化が進む水道管という社会課題に対し、本年 7 月より守山市での漏水検知実証実験に着手しており、この取り組みが水道産業新聞に掲載されました。

衛星データ×音響ＡＩで漏水検知

Ｈｍｃｏｍｍ 守山市で実証実験

ＡＩ音声処理技術を基盤とした要素技術の研究・開発やソリューション・サービスの提供を行うＨｍｃｏｍｍ（東京都港区、三本幸司・代表取締役社長ＣＥＯ）は7月17日、滋賀県守山市が公募した官民連携プロジェクトサポート事業において、同社が提案した「衛星データ×ＦＡＳＴ－Ｄ漏水検知システム」が採択されたことを発表した。実証実験を通じ、水道インフラの老朽化対策として「衛星データ×音響ＡＩによる非破壊・予測型漏水検知モデル」の有効性を検証する。同社は、実証により得られた知見をもとに、守山市内のみならず他自治体への横展開を推進し、維持更新コスト抑制と持続可能なインフラ運営モデルの構築を目指す。

森中高史・守山市長は「今回の取り組みは、広域から精密まで一気通貫で漏水を検知し、点検業務の効率化や漏水の早期発見率向上など、社会全体に大きな恩恵をもたらす可能性がある。実証実験を通じて、本市も一緒に挑戦したいと思う」、白井秀範・Ｈｍｃｏｍｍ執行役員は「音響ＡＩ技術と衛星データを融合させ、これまで難しかった広範囲かつ高精度な漏水検知を可能にする。実証を通じて、点検業務の効率化や漏水の早期発見を支援し、社会全体の安全・安心な水インフラの構築に貢献していく」とそれぞれコメントしている。

具体的には▽衛星データ・地理空間情報を用いて、地表変動や局所的な地形リスクを解析し、漏水の可能性が高いエリアを事前に抽出▽抽出エリアに対し、ポータブル型ＦＡＳＴ－Ｄを用いて巡回・集音し、地中からの漏水音を収集▽音データをＡＩ解析し、漏水兆候の有無や優先対応エリアを特定▽地理情報と検知結果をマッピングし、市職員との協議を通じて有効性・運用性を評価―の手順で実証を行う。異音検知ＡＩソリューションのＦＡＳＴ－Ｄは、機械など正常稼働している場合の音と、異常な状態になっている場合の音をＡＩで分析し、外れ値を検知することで、安定的なモニタリングや異常の早期発見、予兆検知などに活用するもので、今年度から山形県企業局と送水ポンプの異常検知に関する取り組みを行っているほか、成田空港などでの実証実績を有している。

実証は、守山市内の老朽化が懸念される水道インフラが集中するエリアを対象として、今年9月から来年1月を期間に実施する。実証を通じて、▽点検業務の効率化（巡回時間・人員負荷の削減）▽漏水の早期発見率向上▽音×衛星によるスクリーニング精度の評価▽市内他地域・他自治体への横展開可能性―について検証・改善を行う。検証で得られたデータは、システムの機能改善や運用指針の策定に活用する。

守山市は、2024年度から、多様化する社会課題や同市の課題解決に資する実証実験を公募し、行政が伴走支援する官民連携プロジェクトサポート事業を実施している。

水　道　産　業　新　聞
2025年（令和7年）8月7日付

■（参考）2025 年 7 月 17 日開示の補足説明資料

【補足説明資料】「衛星データ×FAST-D 漏水検知システム」の守山市実証実験

■守山市で官民連携プロジェクトのキックオフセレモニー開催

2025 年 7 月 17 日、守山市役所にて本実証実験を含む官民連携プロジェクトのキックオフセレモニーが開催されました。市長や関係者が参加し、各プロジェクトの概要や目指す方向性を共有するとともに、市長からは本件に対する大きな期待の言葉も寄せられました。守山市の「実証実験のまち」としての姿勢が改めて示される場となりました。

セレモニーやプロジェクトの詳細は以下をご覧ください。

・【守山市公式 note】「実証実験のまち、守山市」。2025 年もプロジェクトがスタート！
https://note.com/moriyama_city/n/ncacf6c1fcbed

・【守山市公式サイト】衛星データ×FAST-D 漏水検知 実証実験（令和 7 年度 採択事業一覧）
https://www.city.moriyama.lg.jp/sangyo_business/kigyouka/1010010/1013120.html

【FAST-D について】

Ｈｍｃｏｍｍが開発した「FAST-D」は、設備の稼働音を AI で常時解析し、微細な異常兆候を検知できる異音検知ソリューションです。これまで空港や製造設備での実績を重ねてきた技術を応用し、今回の送水ポンプ監視においても高い精度と即時性で異常を把握し、予防保全を実現します。

【Ｈｍｃｏｍｍ株式会社について】

代表取締役社長 CEO　三本 幸司

URL　https://hmcom.co.jp

設立日　2012 年 7 月 24 日

所在地　東京都港区芝大門２－１１－１　富士ビル２階

事業内容　人工知能（AI）音声処理技術を基盤とした要素技術の研究/開発およびソリューション/サービスの提供を行っております。コールセンター向け AI 音声認識プロダクト「Voice Contact」「Terry」と異音検知プロダクト「FAST-D」を基盤とし、「音から価値を創出し、革新的サービスを提供することにより社会に貢献する」を理念としています。

<本リリースに関するお問合せ>

報道関係者様：Ｈｍｃｏｍｍ株式会社 IR 担当　hm_ir@hmcom.co.jp

企業様：Ｈｍｃｏｍｍ株式会社 営業マーケティング部　sales_team@hmcom.co.jp

TEL：03-6550-9830　FAX：03-6550-9831